

<p>東日本大震災 対策本部情報</p>	<p>46号</p>	<p>2011/04/2 18:30現在</p>
--------------------------	------------	------------------------------

各地本委員長殿

4月2日、韓国の従軍慰安婦問題の解決を求めて運動を展開している、韓国挺身隊対策協議会の代表ユンミヒャンさんより韓国での状況報告と激励電話を頂きました。ご紹介させていただきます。（一部省略をさせて頂きました）

ユン・ミヒャン 韓国挺身隊問題対策協議会常任代表
2011年4月2日

「罪が憎いのであって、人間が憎いわけではないじゃない!!」

この言葉は、日本軍「慰安婦」被害者である吉元玉（キル ウォノク）ハルモニが、今年3月16日に日本軍「慰安婦」問題の解決に向けた第961回水曜デモで記者団に向けて述べた。

日本軍「慰安婦」被害者たちと韓国挺身隊問題対策協議会（挺対協）は、この日の水曜デモを日本の震災による被災者たちへの追悼の意を込めてサイレントデモで進めた。その集会を取材していた約50人の記者のうちの一人が、ハルモニ（おばあさん）に質問をした。

「ハルモニ、日本が憎くないですか？」

ハルモニは、「罪が憎いのであって、人間が憎いわけではないじゃないですか」と答えた。

ハルモニのこの答えは、日本が自然災害に襲われてたくさんの尊い命が手の施しようがないまま亡くなり、行方不明になり、また被害を受けている現状において、韓国のある大手の教会の牧師が「日本の地震は神様の警告」と話したという発言とは対照的で、多くの人々の心に穏やかな感動を与えた。

戦争の中で「獣のような扱い」を受けるどん底の状況下、日本軍の「性奴隷」という恐ろしくつらい経験をした被害者。その戦争が終わって65年が経



インタビューに応えるキル ハルモニ

つ今も、何ひとつ解決しておらず、街頭に立って「謝罪せよ!」「賠償せよ!」と求める闘いを続けている彼女である。そんな彼女の考え方の中心には「ひと」「人に対する愛情」があった。

3月11日、日本の東北地方に大きな災害が押し寄せてきた。地震と津波はあっという間に日本の東北地方の町を焦土化し、その地域に住んでいた日本の市民はもちろん在日や

外国人の命が奪われた。生き残った人々の被害もとてつもなく、生活の基盤を全て破壊してしまった。どうしてあんなことが起きてしまったのだろう、すぐ隣の国で。

ハルモニたちの口からは、今「水曜デモを追悼デモにしよう」とか「犠牲者たちのために私たちも募金をしよう」という提案が出ている。恐らく誰よりも、今日本で被害を受けている日本の方々や在日同胞・外国人を含めた「ひと」が直面している痛みの深さと大きさを、ハルモニたちはよく知っているからだろう。

それでは、これから日本に向けた正しい過去の歴史清算のための活動はどうやっていけばいいのだろうか。「早急な復旧!早急な謝罪!」これが、3月18日に開催した第961回水曜デモの内容である。日本の大震災による被害を早急に復旧できるようにサポートすると同時に、日本が過去の戦争犯罪について明確に責任をとることを求める

活動は一刻も立ち止まってはならない。

一日も早く、日本が大震災という惨事から回復し、さらに震災の犠牲者たちの痛みに



思いを馳せるハルモニたちの広く温かい、大きな心を日本政府が少しでも見習い、過去の歴史の責務を早急に清算することができることを願う。

J R東労組本部

3月16日、日本大使館前でサイレントデモ